

携帯型送信機

WM-1120

このたびは、TOA 携帯型送信機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みにになり、未長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

安全上のご注意



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

内部を開けない、改造しない

機器が故障したり、金属物が入ると火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。



分解禁止

充電するときは、専用の充電電池と専用の充電器を使用する

指定以外の充電器を使用すると、電池の破裂・液もれにより、火災・けが・周囲汚損の原因となります。



強制



注意

誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池の液もれに注意する

長期間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
電池から液がもれて、けが・周囲汚損の原因となることがあります。



強制

電池の取り扱いに注意する

次のことを必ずお守りください。
電池の液もれ・破裂により、火災・けがの原因となることがあります。

- ショート・分解・加熱・火の中に入れるなどしないでください。
- 金属物といっしょに携帯、保管しないでください。
- 充電式電池以外は充電しないでください。
- 電池に直接はんだ付けしないでください。
- 指定した電池をご使用ください。
- (+) と (-) に注意し、表示どおり正しく入れてください。
- 直射日光・高温・高湿の場所を避けて保管してください。



強制

ニッケル水素電池をご使用のお客様へ



ニッケル水素電池のリサイクルにご協力ください。

本機はニッケル水素電池が使用できます。
ニッケル水素電池はリサイクルが可能な、貴重な資源です。
ニッケル水素電池の交換および使用済み製品の廃棄に際しては、ニッケル水素電池を取り出してリサイクルへご協力ください。
使用済みのニッケル水素電池は、捨てないで、お買い上げ店または当社営業所へ返却してください。

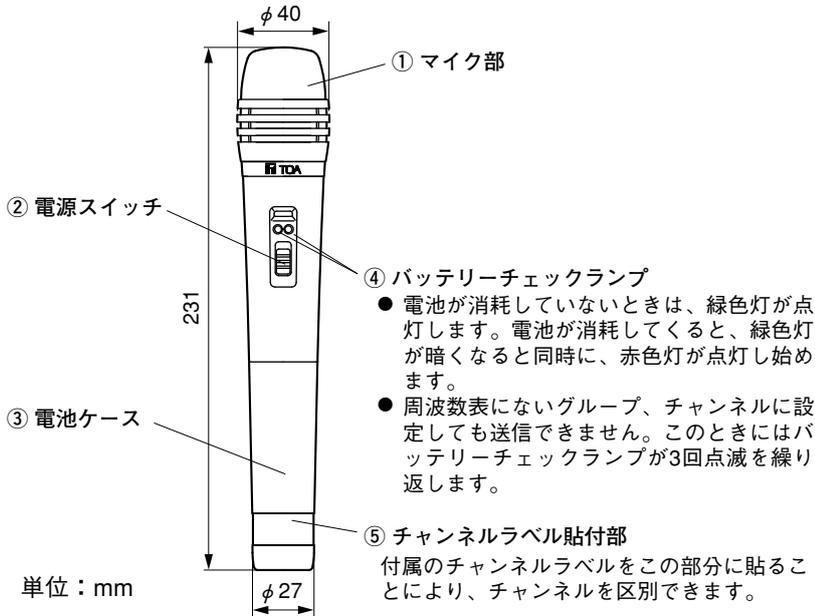
概要と特長

- 本機は、特定小電力無線局のC型ワイヤレスマイク用に割り当てられた、322 MHz 帯の電波を使用した携帯型送信機（ハンドマイク型）です。
- 電源は単3形アルカリ乾電池または充電電池が使用できます。充電電池で使用される場合は、専用の充電電池と専用の充電器を使用してください。

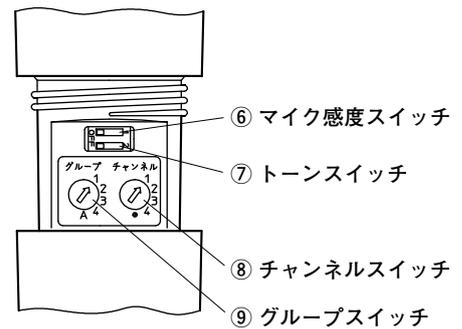
使用上のご注意

- 本機の分解、改造は、電波法で禁止されています。絶対にしないでください。
- 本機に貼り付けている証明ラベルは、絶対にはがさないでください。証明ラベルをはがすと、電波法による技術基準適合証明の効力を失い、使用できなくなります。
- 本機に水が入ったりしないように、また、ぬらさないようにご注意ください。水滴がかかったときは、すぐに電源を切り、乾いた布で十分に拭き取ってください。
- 使用できる電池は、単3形アルカリ乾電池、または専用の充電電池です。他の電池を使用すると正しく動作しないことがあります。
- 専用の充電電池で使っているときは、受信／バッテリーチェックランプが赤色に変化した後、数分で電池が切れて使用できなくなります。電池使用時間に注意し、予備の電池の準備をお願いします。
- 自動車のダッシュボードの上など、温度の高い場所や湿度の高い場所には置かないでください。故障の原因となります。
- 床に落としたり、かたいものに当てないでください。故障の原因となります。
- 汚れたときは、乾いた布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、薄めた中性洗剤をしみこませた布で軽くふいてから、からぶきしてください。ベンジン、シンナー、化学ぞうきんは絶対に使用しないでください。

各部の名称とはたらき



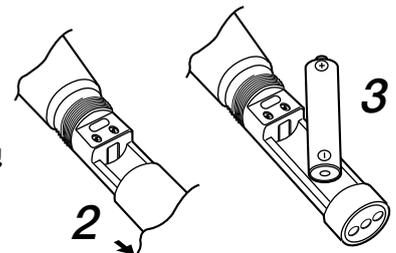
● 電池ケース内拡大図



※それぞれのスイッチのはたらき（設定のしかた）については、「上手にお使いいただくために」をご覧ください。

電池の入れかた

- 1 電源スイッチ②を切る。
- 2 電池ケース③を反時計方向に回し、ケースを外す。
- 3 電池収納部の（+）と（-）の表示に合わせて、単3形アルカリ乾電池または専用充電電池を入れる。
- 4 電池ケース③を元どおりにしっかりと締める。



● 電池の交換時期

バッテリーチェックランプ④は、電池が消耗してくると次第に緑色灯が薄くなり、赤色灯が点灯し始めます。赤色灯だけが点灯する状態になったら、新しい電池と交換してください。



ご注意

専用の充電電池で使っているときは、受信／バッテリーチェックランプが赤色に変化した後、数分で電池が切れて使用できなくなります。

充電式として使用するとき

ご注意

充電式として使用するときには、次の専用充電器と専用充電電池が必要です。

- 専用充電器 : BC-1100A-4 または BC-1100A-12
- 専用充電電池 : WB-2000 または WB-1000A

メモ

充電器には、次の本数の専用充電電池（WB-2000）が付属しています。

- BC-1100A-4 : 4本
- BC-1100A-12 : 12本

■ 充電のしかた

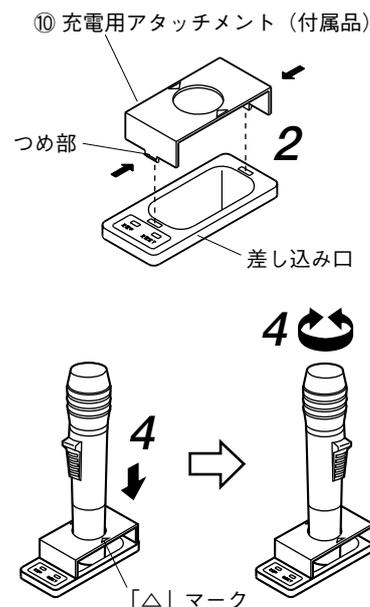
- 1 専用充電電池を本機に入れる。
- 2 専用充電器の差し込み口に、本機に付属の充電用アタッチメント⑩を取り付ける。
充電用アタッチメントのつめ部を図のように充電ケースの穴に差し込みます。
(充電用アタッチメントを取り外すときは、矢印方向に押し引き上げます。)
- 3 本機の電源スイッチ②を切る。

ご注意 充電するときは必ず本機の電源スイッチ②を切ってください。電源スイッチを入れたままでは正しく充電されません。

- 4 本機を充電用アタッチメント⑩の穴に差し込む。
このとき、本機の電源スイッチ部が専用充電器の「△」マークの位置になるように回転してください。
専用充電器の充電中表示灯（赤）が点灯し、充電が開始されます。

ご注意 本機を専用充電器に入れても充電中表示灯（赤）が点灯しないときは、本機がしっかりと正しく差し込まれているか確認してください。

※ 詳しくは使用する専用充電器の取扱説明書をお読みください。

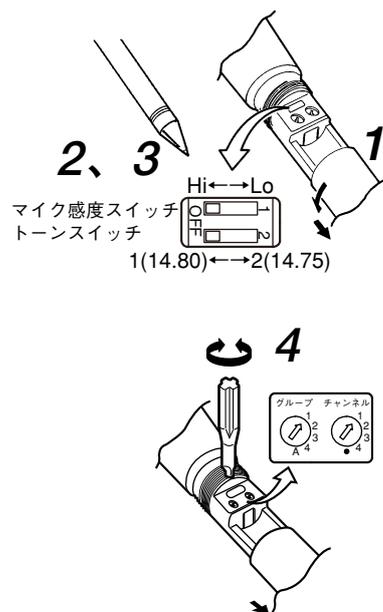


操作のしかた

- 1 電源スイッチ②を切り、電池ケース③を反時計方向に回し、ケースを外す。
- 2 マイク感度スイッチ⑥をボールペンの先などで設定する。
通常は「Hi」に設定してください。(工場出荷時は「Hi」)
- 3 トーンスイッチ⑦をボールペンの先などで受信機と同じ設定にする。
(工場出荷時は「1」)
- 4 グループスイッチ⑨とチャンネルスイッチ⑧の矢印を、付属の設定用ドライバーで、受信機と同じ設定に合わせる。
(工場出荷時はグループ「1」、チャンネル「1」)

ご注意 「周波数表」にないグループ、チャンネルに設定しても送信できません。誤った設定や、確実な設定がされていない(番号と番号の間など)ときは、バッテリーチェックランプ④が3回点滅を繰り返して異常を知らせます。もう一度確認して設定し直してください。

- 5 電池を入れ、電池ケース③を元どおりにしっかりと締める。
- 6 電源スイッチ②を入れる。
このときバッテリーチェックランプ④が緑色に点灯していることを確認してください。
- 7 マイクに向かって話す。
- 8 使い終わったら電源スイッチ②を切る。
バッテリーチェックランプ④は約1秒後に消灯します。



上手にお使いいただくために

- 同一場所で同時に使用できるチャンネル数は、グループ1～3では4チャンネル、グループ4では1チャンネル、グループAでは5チャンネルです。同時使用するときは、同一グループの中でチャンネル設定をしてください。複数チャンネルを同時に使用すると、1チャンネルのみの場合に比べて通達距離が短くなることがあります。
- 近くで本機と同じC型ワイヤレスマイクを使用していると、チャンネルによって妨害を受けることがあります。そのときは、チャンネルを変更してください。
- 本機にはトーンスケルチ機能があり、送信機と受信機の両方が同じトーンに設定されたときのみ、受信機から音声が出るようになっています。トーンを2チャンネル実装していますので、使用する送信機と受信機のトーンを

同じ設定にしてください。

- マイク感度を切り換えることができます。騒音が激しい場所で使用する場合、感度を落とす〔Lo〕側）ことにより改善できることがあります。
- マイク部を口もとから5～10 cm程度離すようにすると、音の明瞭性が良くなります。
- 本機を2本以上使用するときは、50 cm以上離して使用してください。近づけ過ぎると、混信したり、音が途切れたりすることがあります。
- 本機を受信アンテナに近づけすぎると、受信機が混信したり、誤動作をしたりすることがあります。本機は受信アンテナから3 m以上離して使用してください。

仕 様

電 源	DC1.2 V (専用充電電池)、DC1.5 V (乾電池)
無 線 局 の 種 類	特定小電力無線局ラジオマイク用無線設備
電 波 型 式	F3E
送 信 周 波 数	322.025 ～ 322.150 MHz、322.250 ～ 322.400 MHz 25 kHz 間隔、13 チャンネル
送 信 出 力	1 mW
発 振 方 式	水晶制御 PLL シンセサイザー方式
ト ー ン 周 波 数	14.80 kHz、14.75 kHz (2 チャンネルのうち1 チャンネル)
使用マイクロホン	単一指向性エレクトレットコンデンサー型
総合周波数特性	200 Hz ～ 5 kHz (携帯型送信機→携帯型受信機) 150 Hz ～ 6 kHz (携帯型送信機→卓上型受信機、ワイヤレススピーカー)
プリエンファシス	50 μs
最大入力音圧	114 dB SPL (±7 kHz 偏移、マイク感度 Hi 時) 120 dB SPL (±7 kHz 偏移、マイク感度 Lo 時)
使 用 電 池	専用充電電池 WB-2000、WB-1000A または単3形アルカリ乾電池 (1本)
電池持続時間	約18時間 (WB-2000 使用時) 約10時間 (WB-1000A 使用時) 約20時間 (単3形アルカリ乾電池使用時)
使用温度範囲	-10 ～ +40℃
仕 上 げ	ボディ : 樹脂 (エラストマポリカーボネート) ダークグレー (マンセル 10B3.5/1 近似色)、塗装 ヘッド : 金属メッシュ (鉄)、ダークグレー (マンセル N3.5 近似色)、塗装
寸 法	φ40 × 231 mm
質 量	190 g (電池含む)
付 属 品	単3形乾電池 (R6PU、テスト用) 1 設定用ドライバー 1 収納ケース 1 チャンネルラベル 1 充電器用アタッチメント 1 マイクホルダー (φ30 ～ φ35 mm、NS5/8 → U5/16 変換アダプター付き) 1

※ 本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

周波数表

グループ	1	2	3	4	A
周波数 (MHz)					
322.025			C31		CA1
322.050	C11				
322.075		C21			CA2
322.100	C12				
322.125		C22			
322.150			C32		CA3
322.250	C13				
322.275		C23			
322.300				C41	CA4
322.325			C33		
322.350	C14				
322.375		C24			
322.400			C34		CA・

※ 真ん中の数字がグループを、末尾の数字がチャンネルを表します。

トーン周波数表

1	14.80 kHz
2	14.75 kHz

故障かな?と思ったら

症状	点検	処置
電源が入らない。	電池が消耗していませんか? 電池の極性が間違っていないですか?	新しい電池に交換してください。 充電式の電池の場合は充電し直してください。 電池を入れ直してください。
送信機と受信機が近くでも受信できない。バッテリーチェックランプ④は正常。	グループスイッチ⑨、チャンネルスイッチ⑧が受信機と同じになっていますか? トーンが受信機と同じになっていますか?	グループスイッチ⑨、チャンネルスイッチ⑧を受信機と同じにしてください。 トーンスイッチ⑦を受信機と同じトーンにしてください。
送信機と受信機が近くでも受信できない。バッテリーチェックランプ④は3回点滅の繰り返し。	グループスイッチ⑨、チャンネルスイッチ⑧が割り当て外のところに設定されていませんか?	グループスイッチ⑨、チャンネルスイッチ⑧を正しく設定してください。
大きな声でマイクに話さないと、受信機からの声が小さい。	マイク感度スイッチ⑥が「Lo」になっていませんか?	マイク感度スイッチ⑥を「Hi」に設定してください。

TOA お客様相談センター

商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。
受付時間 9:00 ～ 17:00 (土日、祝日除く)

フリーダイヤル **0120-108-117**

ナビダイヤル 0570-064-475 (有料)
FAX 0570-017-108 (有料)
※ PHS、IP 電話からはつながりません。

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所については、TOA ホームページをご確認ください。

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供することがあります。個人情報の取扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <http://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

133-07-00033-02